

### ヤングケアラーの支援について

佐藤 龍彦



〔質問〕ヤングケアラーとは、通学や仕事の傍ら、障害や病気の親や

祖父母、兄弟などの介護や世話をしている18歳未満の子どものことで、介護などのために学業に遅れが出て、進学や就職を諦めたりするケースもある。

過度な負担は、児童労働問題といっても過言ではないと指摘する声さえある。

本市の各小・中学校で実施している学校生活アンケートに、ヤングケアラーの実態を把握するための項目を入れられないか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕ヤングケアラーに対する法令上の定義はないが、ヤング

ケアラーと呼ばれる状態の中で、学ぶ権利や、時には生存権さえ脅かされるケースもあり、非常に憂慮している。

現在実施している学校生活アンケートを有効に活用し、定期的に子どもたちの暮らしなどを調査していくことが重要と考える。

国もヤングケアラーの定義などについて、検討中との情報もあることから、それらを参考に、ヤングケアラーといわれる状況の把握について、学校生活アンケートに不備があるのであれば、変更することも含め総合的に検討していきたい。

〔質問〕今後、ヤングケアラー支援にどのような取り組みを考えなのか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕教育委員会としては、これまで以上に学校と綿密な情報交換をしながら実態の把握に努め、できるだけ早期に憂慮すべきケースに対応していきたい。

また、教育委員会、学校だけで完結する問題ではないため、福祉分野とも協議、連携しながら、今後の対応を検討していきたいと考える。

現実には、市内において、ネグレクト、児童虐待と思われるような事案も起きており、市の福祉分野とも連携しながら、場合によっては児童相談所に一時保護するというようなケースも考えられる。

教育委員会としては、子どもたちの権利侵害に当たらないよう、今後もしっかり取り組んでいきたいと考える。

〔その他の質問〕  
◎ スパッシュランド  
しろいしについて

### ふるさと納税について

菊地 忠久



〔質問〕今年度、「ふるさと納税推進室」を設置したことになる、返礼品充実のための取り組みや効果について伺う。

〔答弁〕〔市長〕5月末までに24事業者を訪問し、新たな返礼品が随時追加され、受け入れ額も増加している。

新規事業者の開拓も行なっており、今後市内事業者などに積極的に働きかけていきたいと考える。

〔質問〕返礼品充実の他に、寄附金額を増額させる取り組みを伺う。

〔答弁〕〔市長〕さくら、楽天、ふるさとチョイスに加え、6月からふるなびの取り扱いをスタートし、ポータルサイトを

拡充した。

さらに、ホームページを充実させるとともに、6月からSNSを活用した情報発信を開始するなど、新たな取り組みを進めている。

今後もふるさと納税の推進に力を尽くしていきたい。

〔質問〕個人事業者や中小零細企業にとっては、金銭的な面などから新商品開発が難しい場合がある。

返礼品開発、磨き上げにかかる経費の一部を補助する事業を行うべきと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕ふるさと納税に特化した新たな事業については、経費率も踏まえた検討が必要となることから、今後、企業版ふるさと納税の取り組みと併せた検討

を行なっていくたいと考えている。

〔質問〕補助事業を行うことで、参入への障壁を取り払う役割を果たすと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕新商品をふるさと納税の返礼品として選んでいただけのような支援ができればと考えている。

本市はスイーツ系の返礼品が人気であるが、人気のある分野を積極的に研究していただければ、相乗効果として市としても応援でき、事業者の売り上げの増加にも寄与できるのではないかと考える。

さまざまな情報交換をさせていただきながら、市としてもできる支援策を今後検討していきたい。

〔その他の質問〕  
◎ 公立刈田綜合病院について  
◎ LINEによる情報発信について  
◎ 新型コロナウイルス ワクチン接種について